

# 千里丘遺跡群発掘調査概要

都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査

2006年3月

大阪府教育委員会



## はじめに

千里丘2丁目遺跡第2地点などの所在する大阪府摂津市域は、西から北にかけて六甲山系や千里丘陵越しに摂津の山々を望み、近くには万博公園や淀川があり、豊かな自然に恵まれている。とともに、社寺や街道、史跡など歴史的遺産にも富んでいる。市域の大部分は、縄文時代前期末から中期に淀川水系の沖積作用によって形成された。そのため、淀川の川床や千里丘陵につながる市域北部からは、弥生時代を中心とした遺物が出土している。周辺には、弥生時代に遡る明和池遺跡や東奈良遺跡、吹田操車場遺跡などの遺跡がある。

その一方で、大阪市の中心部まで20分ほどという利便性から住宅地としての開発もすすみ、急速な変化を遂げてきた。当該調査地に隣接する、昭和13年に開設されたJR千里丘駅や駅の開設以前に設置された小坪井架道橋も駅前開発にともない、まさに今、大きく様相を変えている。

そうした市街化されたエリアの中で、今回の調査は実施した。その結果、地下部分はさほど損壊を受けず、縄文時代の石器集積から古代・中世の耕作痕や掘立柱建物、近世以降の耕作痕に至るまで、長きにわたってこの地域に人々が居住していた痕跡が残されていたことを確認することになった。

大正期の大大阪であった時代には東洋一の貨物輸送拠点とうたわれた吹田操車場の建設、戦後日本の復興を証明する昭和45年の大阪万博など、日本の近代化を象徴するような出来事もこの千里丘の近接地で数多く起こった。まだ記憶に新しい吹田貨物ターミナル駅計画合意のニュースは、この地の景観のさらなる急激な変化を促すものであろう。ただ、このような成果を得たことで、この地に恵まれた豊かな自然と歴史的遺産がいまだに残されていることを再確認し、利便性のみならず地域府民のより豊かな質の高い生活環境を積極的に創出するために役立てていけるものと信じる。

上記の成果を得た調査の実施にあたっては、摂津市教育委員会、大阪府茨木上木事務所、地元自治会各位をはじめとする多くの関係者の方々にご協力いただいた。深く感謝するとともに、今後ともこの地における文化財保護行政にご理解、ご協力をお願いする次第である。

平成18年 3月

大阪府教育委員会文化財保護課長

丹上 務

## 例言

1. 本書は、大阪府教育委員会が、大阪府土木部の依頼を受け、都市計画道路千里丘三島線道路改良予定地について平成17年度に実施した摂津市千里丘2丁目他に所在する遺跡の発掘調査の概要報告書である。調査番号は05024である。
2. 調査は、文化財保護課 調査第一グループ 主査 一瀬和夫、技師 小川裕見子が担当した。
3. 調査に要した経費は、大阪府土木部が負担した。
4. 調査の実施にあたっては、摂津市教育委員会、大阪府土木部、大阪府茨木土木事務所をはじめとする諸機関、諸氏の協力を得た。
5. 本書の編集・執筆は、小川が担当した。
6. 本書に掲載した遺物写真の撮影は、有限会社 阿南写真工房に委託した。また、航空写真測量については株式会社アコードへ委託した。
7. 本概報は、300部を作成し、一部あたりの単価は376円である。

## 目次

はじめに

例言

目次

第1章 調査に至る経過

第2章 調査の概要

　　第1節 検出遺構

　　第2節 出土遺物

第3章 まとめ

写真図版

報告書抄録

# 千里丘遺跡群発掘調査概要

都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査

## 第1章 調査に至る経過

今回の主だった調査地はJR千里丘駅西口前、摂津市千里丘1丁目に位置する。都市計画道路千里丘三島線道路改良事業とJR千里丘駅前再開発事業にともない、線路をくぐってJR千里丘駅東口と西口とを結ぶ小坪井架道橋の拡幅工事が都市計画事業の一環として平成3年に事業認可された。この近辺では、平成9年度摂津市教育委員会によって行なわれたJR千里丘駅東口の南側で行なわれた立会調査において、中世の包含層が確認され、土師器・瓦器片が出土した。当該地は千里丘東3丁目遺跡第1地点とされた。また、平成10年度に、今回の調査地から工事該当道路を挟んで南西側の宅地の一角を同じく摂津市教育委員会が立会調査した際に、遺物の包含層と土坑の存在が確認され、千里丘2丁目所在遺跡第2地点とされた。その後も、JR千里丘駅東口の駅前総合商業施設であるフォルテ摂津の建設に当たって平成11年度に行なった調査では、奈良時代から平安時代にかけての耕作痕を伴う生産遺跡が発見され、千里丘東2丁目遺跡とされた(注1)。

こうした小坪井架道橋工事関連の立会・試掘を含む調査では、他にも数多くの遺跡の存在が確認されており、今年度の工事を開始するにあたって、本府教育委員会がまず、試掘と確認調査を実施した。これは大阪府茨木土木事務所の依頼をうけ、平成17年7月21日と22日と2日間にわたって計6ヶ所のトレンチを入れることになった。

初日に調査を行なったトレンチ1、2、3は都市計画道路千里丘三島線の南側沿いにほぼ東西方向に3箇所並べて設置し、そのうち一箇所は周知の千里丘2丁目遺跡第2地点に含まれるものであった。地表面から-0.9m～-0.7m(T.P.+9.38m～+10.12m)付近で暗灰色の旧耕作土(厚さ約10～30cm)が、その下、T.P.+9.26m～+9.83mで地山と見られる青灰色粘土層を検出した。トレンチ5はJR線路を挟んで東側のロータリー建設予定地に設置した。ここでは現代盛土の下に耕作土は存在せず、T.P.+9.75mの地表面より約40cm掘削した時点で厚さ約20～25cmの青灰色シルト層が露呈し、T.P.+8.09m～+8.15m付近で大阪層群の一部と見られる青灰色粘土層を確認した。以上、この4箇所のトレンチでは、遺構・遺物の検出・出土は見られなかった。

翌日行なったトレンチ4aと4bの調査において、中世期のものと見られる遺物・遺構を確認した。両トレンチは当該道路の北側、JR線路西脇に設置した。地表面より-0.3m～-0.5m(T.P.+9.42～T.P.+9.58m)付近より、暗灰色の旧耕作土(厚さ約20～40cm)、その下には青灰色

粘土層（厚さ約 20 から 40cm）が存在した。東側、JR 線路寄りのトレンチ 4b では、青灰色粘土層下部、T.P. + 9.14m 付近より直径約 25cm の土坑もしくはピットと見られる円形の遺構を 2 つ検出した。西側のトレンチ 4a では、4b で土坑を検出した青灰色粘土層下部のさらに下の T.P. + 8.84 ～ + 9.02m より遺物包含層の上面を検出し、T.P. + 8.72 ～ + 8.80m 付近で土師器と瓦器の小片が数点出土した。

これら所見から、該当エリアの中世以前の遺構は、全般的に後世の耕作などによって削平されており地山がすぐに露呈するが、トレンチ 4a と 4b の周辺のみ例外的に遺構が残されていたと見られる。周辺地形を考慮した結果、当該地点は南北方向の谷部分の北側に相当することから、遺構面の削平が免れたものと解釈できる。この結果を受けて、茨木土木事務所が発見届けを提出し、今回の道路工事予定地のうち、試掘調査トレンチ 4a、b を中心に約 200 m<sup>2</sup> (8m × 25m) の調査区を設定することになった。平成 17 年 9 月 26 日～10 月 22 日にわたって発掘調査を実施した、現在、新規発見遺跡名は千里丘 1 丁目所在遺跡第 2 地点となっている。

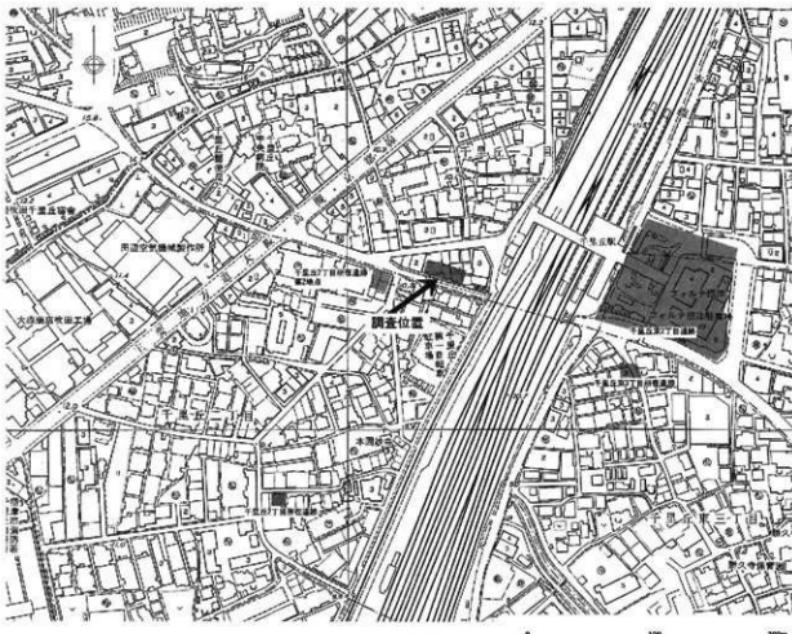


図 1 調査対象地位置図

## 第2章 調査の概要

### 第1節 検出遺構

調査の結果、当該地区は縄文時代から近世にわたる複合遺跡である事が確認できた。地表面より約-0.45～-0.65cm付近の旧耕作土上面までを機械掘削で除去した後、地表面より約-1.33m～-1.50mまで人力掘削を行なった。地層は、堆積状況から大きく7層に分けることができ、この7層は隣接する層や遺構からの影響と考えられる要因によりさらに細分することが可能であった。調査区の北、南、西の3方向の壁面を断面図として記録した。(図5～7)

このうち遺構が検出された文化面は3面存在した、第3・6・7層の上面において遺構の検出と記録を行ない、各々、近世、中世、古代期以前の面と性格づけられることがわかった。

#### a) 第1面 近世期以降の遺構

第1面は、本調査の基本層序では第4層上面において検出された。溜池もしくは流路と見られる遺構・溝などの耕作の痕跡、柱穴と見られる建物の痕跡、土坑などを検出した。(図2)

溜池／流路1と2は埋土の性質上、同一の遺構と考えられる。土師器・須恵器・瓦器片のほか、(中世後期から近世のものと見られる) 緑釉陶器(図版4上段4-3)や国産陶器碗の高台付き底部(図版4上段4-4)、近現代のものと見られる陶器片や瓦片など、比較的新しい時代の遺物が出土することにより、近世期以降も長期に渡って使用されていたと考えられる。溝1は溜池／流路1によって切り込まれており、やや古い時代の遺構と見られる。陶器片が出土している。ピットではピット6～8は埋土の性質と位置関係から同一建物の柱穴と考えられるが、年代決定できる遺物の出土はなかった。ピット2・3(この2つも同一建物の柱穴の可能性は高い)、土坑2からはそれぞれ土師器片が、土坑3からは青磁片(図版4上段4-1)と須恵器片が出土した。

また、検出面より上面においても、畦畔や溝など、耕作の痕跡が主に北壁断面より確認できた。

#### b) 第2面 中世期の遺構

第2面でも第1面同様、耕作と建物の痕跡を中心とした遺構を第6層上面で検出した(図4)。

主たる耕作の痕跡は、第1面から続く溜池／流路1・溝1とほぼすべてが東西方向にそろう鈍溝群とであった。溜池／流路1の下層からは、土師器・須恵器・瓦器の破片が出土した。

建物の痕跡と見られるものは、ほぼ南北方向を主軸とする掘立柱建物群の柱穴が検出された。建物は約8棟まで確認される。ピット6からは土師器・須恵器片、土坑1とピット21・ピット25からは瓦器片が出土した。同検出面から出土した主だった遺物は、陶器片・瓦器片など

鎌倉時代前後と見られる中世期のものであった。

### c) 第3面 古代期以前

第3面は第7層上面、で検出された。長期にわたる、異なった時代の遺構を同一面上で検出した（図3）。

奈良～平安時代にかけてのものと見られる東西方向の流路、東・北方向にL字型に曲がる溝、牛と考えられる足跡、馬鍔の後と考えられる約10cm間隔で平行に走る数条の溝（図版3-5）、鍛溝を伴う耕作の痕跡が検出された。また、柱穴と思われるピット状の遺構が検出され、遺構の周辺からは、須恵器・土師器・黒色土器（内黒）の破片とともに瓦も出土したため（図版3-2）、同時代の住居の存在も示唆される。

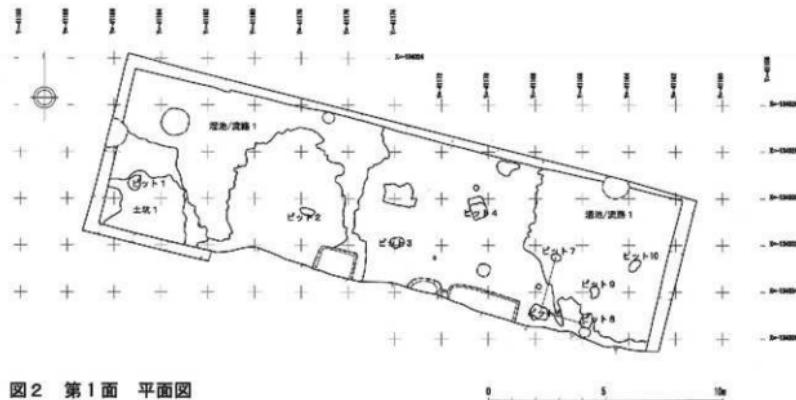


図2 第1面 平面図

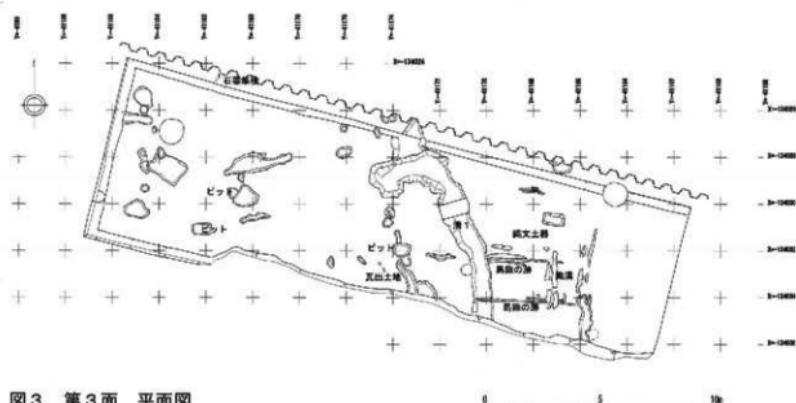


図3 第3面 平面図

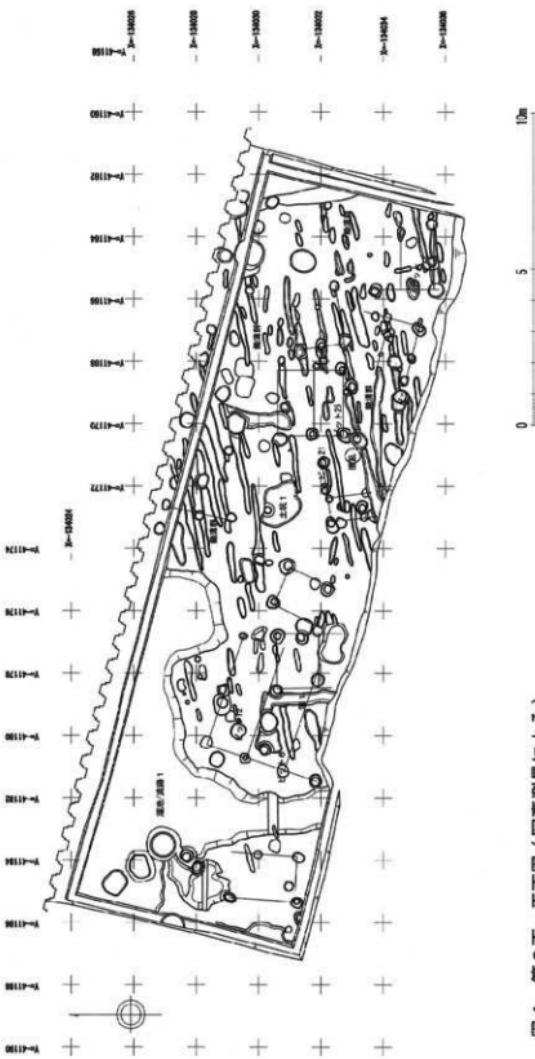


図4 第2面 平面図(写真測量による)

同一面上において、調査区の北西隅近く（調査区北壁アゼ上、図3の石器集積出土地点）では、縄文期のものと見られる地層より137点を越えるサヌカイト製石器の集積を検出した（図版3-3・4、図8・9）。また、調査区の東側（図3参照）からは縄文土器類の破片も出土した（図版3-1）。

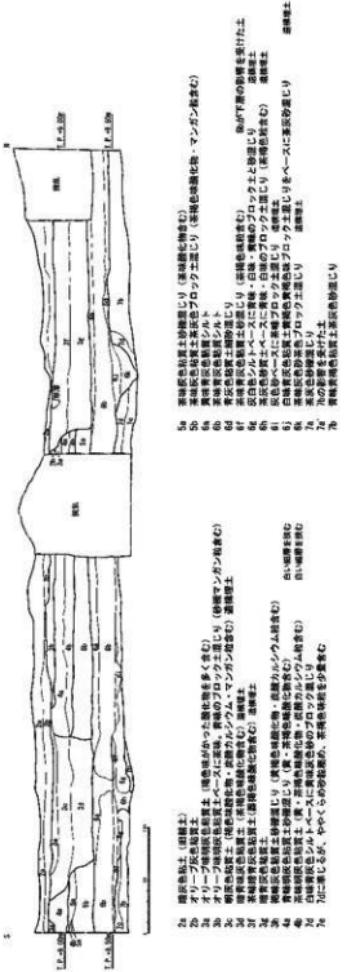


图 5 调查区西壁断面图

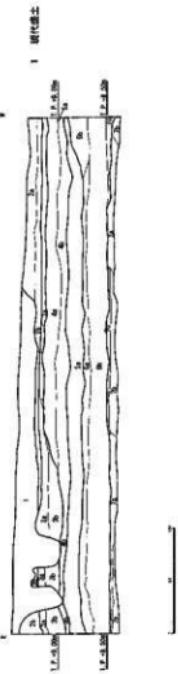


圖 6 調查區南壁斷面圖

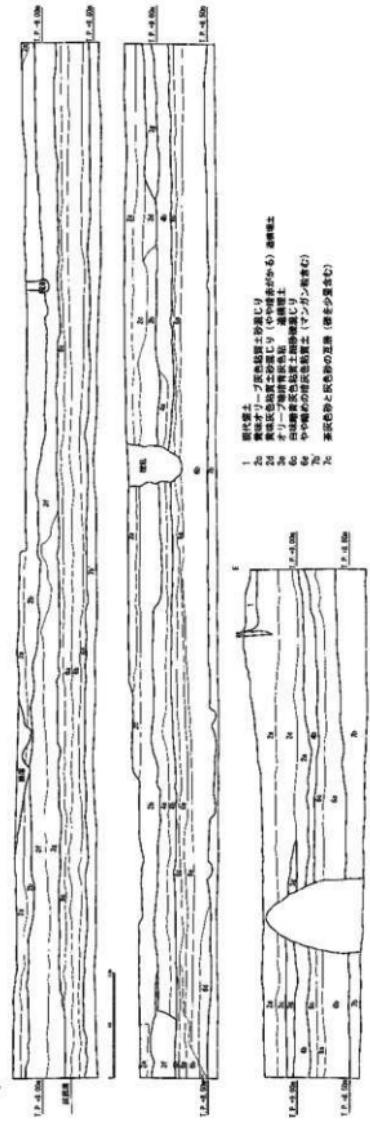


図 7 調査区北壁断面図

## 第2節 出土遺物

### a) 陶磁器・土器

陶磁器は碗と見られるものがほとんどである。中国産の輸入磁器に加えて、国産のものも出土した。図版4上段4-2の青磁碗は越州産の輸入青磁と見られる。今回の調査で出土した陶磁器・土器の中では、残存状態が一番良好であったが、搅乱1から出土した。

土器には顕著に残存状態の良いものはなかったが、瓦器(図版4下段)、内黒の黒色土器、須恵器(図版5上段左半)、土師器の破片(図版5上段右半)が出土した。瓦器片のうち器形が特定できるものは第6層上面から出土した土釜1点(図版4下段4-5)を除くすべてが碗であり、口縁部と高台付き底部の破片があった。主に鎌倉時代前後の遺物であると思われる(図版4下段)。須恵器では壷口鉢の口縁と見られる破片(図版5上段5-1)が溜池・流路1の上層(第1面)より出土した。土師器の破片は小皿の口縁部と見られるものが数点あったが(図版5上段右半)、第7層上面より出土した土釜1点(図版5上段5-2)を除くほとんどの破片は、器種や年代を特定するに十分な残存状態ではない。

### b) 瓦

出土した瓦は4点あり、そのうちの2点は接合が可能であった(図版5下段)。

### c) 石器

出土石器はすべてサヌカイト製で、チップを除いて1.5cm~9.1cmの大きさのものが合計で137点であった。第7層上面では主だったもので16点出土していた(図版3-3)。その上層の16点を取り上げ後、ピット内にレンズ状に堆積した状態で出土した(図版3-4、図5・6)。T.P.+85.89m付近で上層が出土し、堆積の中心部の厚さは約9.3cmであった。接合可能なものの数点あったが(図版6)、完成品と見られるものはなかった。



図8 第3面石器出土状況図(中層)



図9 第3面石器出土状況図(下層)

### 第3章　まとめ

本調査では、近世、鎌倉時代前後の中世期、奈良・平安の古代期～縄文期における耕作・建物の痕跡を中心とした遺構を検出した。また、各々の時代を特徴づける陶磁器・瓦器・黒色土器・土師器・須恵器・瓦・石器等の遺物が出土した。

遺構面第1面では、溜池／流路を中心とし、土坑、溝などの耕作の痕跡とピットを検出し、それらは近世以降の遺構であると思われる。第2面では、第1面から続く溜池／流路、溝、ほぼ東西方向にそろう鉢溝群などの耕作の痕跡、8棟まで確認された掘立柱建物群のピット、土坑などの遺構を検出した。遺構とその周辺から土師器片・瓦器片が出土し、遺構はおもに鎌倉時代前後の中世期のものと思われる。第3面では、古代から縄文時代の遺構・遺物を同一面上において確認した。奈良～平安時代のものと思われる流路、溝、鉢溝、足跡などの耕作の痕跡と掘立柱建物の痕跡と思われるピットを検出した。遺構の周辺からは、土師器・須恵器・黒色土器（内黒）の破片が出土した。また、縄文時代の地層から石器集積と縄文土器が出土した。

このように、当該調査地は旧地形における谷部分の北側に位置したことから、長期にわたる人々の生活の痕跡が運良く削平を免れて残された、縄文時代～近世にわたる複合遺跡であることが確認された。

当該調査地に隣接する小坪井架道橋は片道一車線の狭路で交互信号が設置されている。府道大阪京都高槻線へ抜ける当該道路は交通量が比較的多いが、信号待ちの時間のために渋滞を引き起こす原因にはなっている。工事は都市計画事業の一環として、茨木土木事務所により計画され、平成3年度に事業認可された。平成21年春を事業の完成目標としている。駅の東口はすでに駅前複合商業施設であるフォルテ摂津が建設され、バスターミナルも整備された。今回の調査該当地区の西口側は、一部分は用地買収が進み、地下道の延長上の道路の両脇には眞新しい建物も並んでいる。しかしながら、少し脇へそれると小規模店舗が並び、東口側に比べて下町の名残のある景観が見られる。

本体工事は本調査終了直後から開始し、ここで紹介した遺跡は既に存在しない。調査途中も本体工事の一部の作業は平行して行なわれ、先を急ぐ様子があらわな光景であった。人通りが多く人目につきやすい立地条件から、調査中に通りがかりの近隣住民から声をかけられたり、隣家の住人の話を聞く機会もたびたびあった。「摂津市にこんな古い歴史があったのね。」という喜びの声もある反面、「こんなんできたら工事止まるんじゃうのん？」という憂いの声も耳にした。一度破壊された遺跡は二度と元にはもどらないが、地域住民にとって本当に必要な開発なら優先されるべきである。複雑な気持ちで調査を終了した。

(注) 調査については、奥和之・藤田道子・伊部貴雄・岡田賢・細川晋太郎・松村祐香・大向智子他、諸々諸氏のご協力をいただいた。ここに記して謝意を表したい。

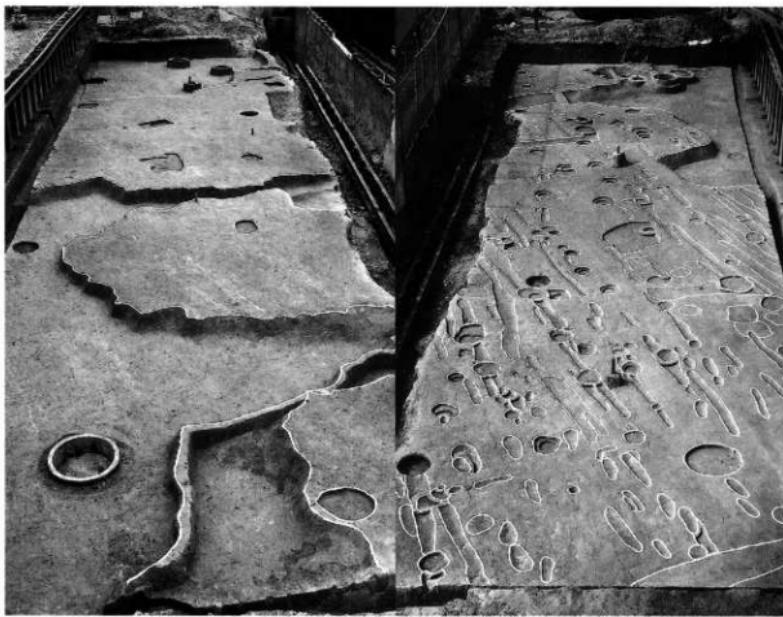
# 図 版



調査区遠景全景（西から）



調査区全景（垂直）



第1面遺構検出状況（西から）

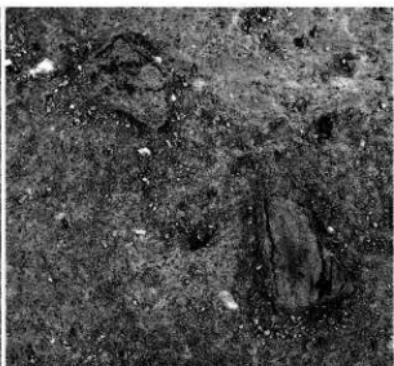
第2面遺構検出状況（西から）



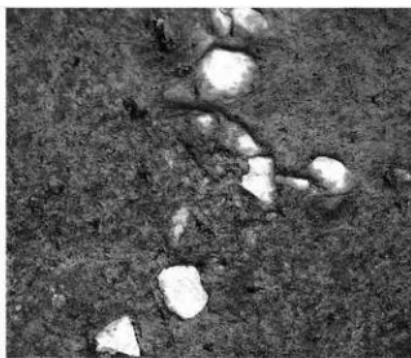
第3面遺構検出状況（東から）



3-1 第3面 縄文土器出土状況（南から）



3-2 第3面 瓦出土状況（南から）



3-3 石器出土状況 上層（南から）

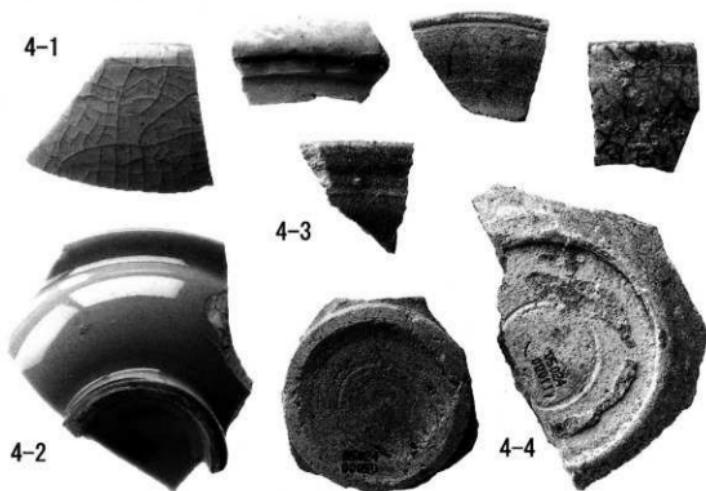


3-4 石器出土状況 中層（南から）



3-5 馬銃痕と見られる遺構断面（東から）

4-1

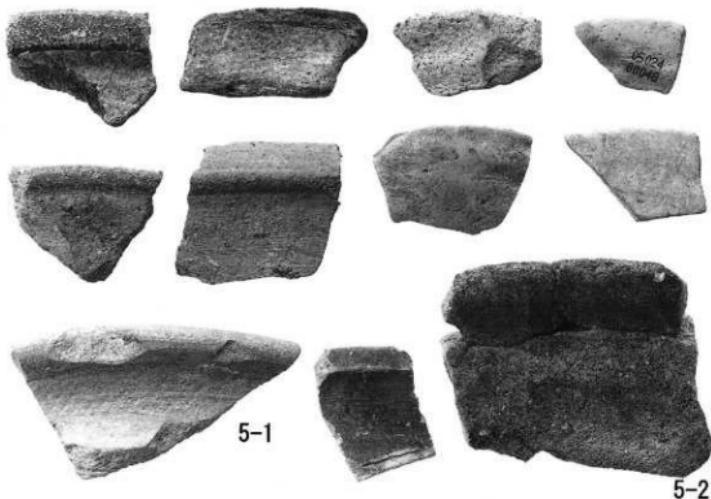


出土陶磁器

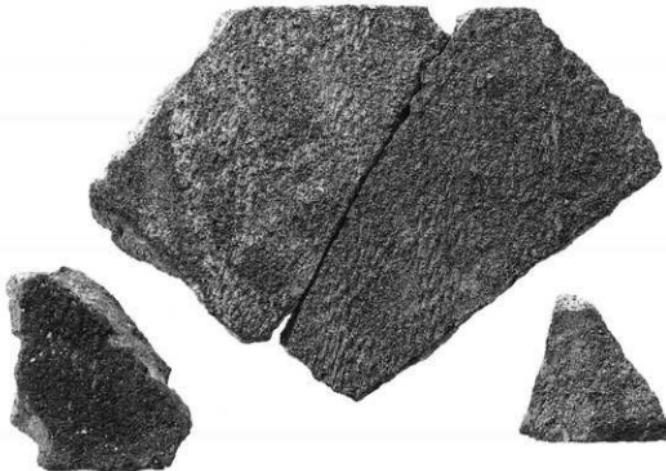
4-5



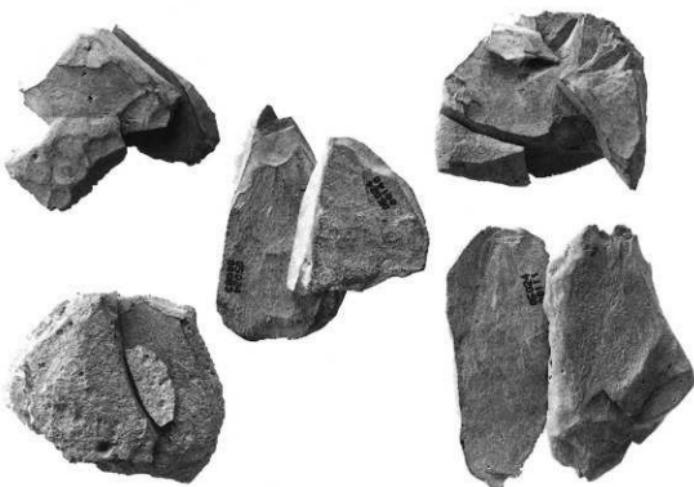
出土瓦器



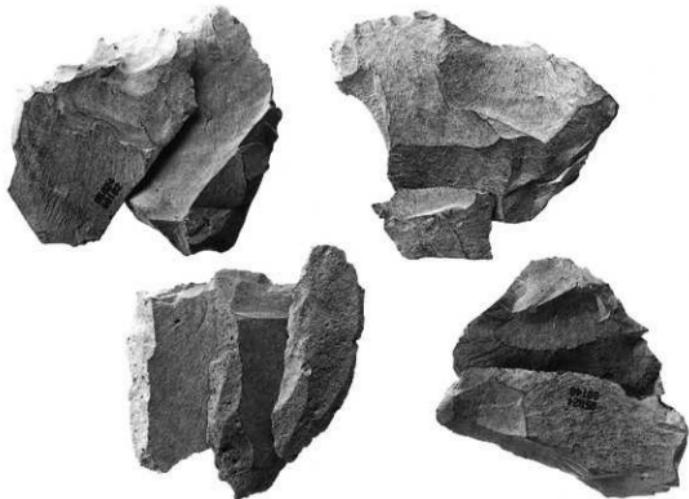
出土須恵器・土師器



出土瓦



出土石器 接合例 1



出土石器 接合例 2

## 報告書抄録

ふりがな	せんりおかいせきぐんはくつちょうさがいよう						
書名	千里丘遺跡群発掘調査概要						
副書名	都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	小川裕見子						
編集機関	大阪府教育委員会 文化財保護課						
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL:06-6941-0351						
発行年月日	2006年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
千里丘1丁目所在 遺跡第2地点	摂津市千里丘 1丁目	27224	20他	34°47'16" N	135°33'10" E 2005年7月21日 ~ 2005年10月21日	200m <sup>2</sup>	道路改良 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
千里丘1丁目 所在遺跡第2 地点他	生産遺跡、 住居、 集落	縄文時代 古代  中世  近世	縄文時代:石器集積 古代:流路、溝、 鶴溝、足跡、 ビット  中世:流路、土坑、 溝、鶴溝群、 ビット  近世:槽池/流路、 土坑、溝、 ビット	縄文時代:土器、石器 古代:土師器、須恵器、 黒色土器、瓦  中世:土師器、瓦器、 瓦	縄文時代の地 層から石器集積 と土器が出土し た。古代から中 世にかけて、櫛 立柱建物群と耕 作の痕跡を検出 した。

### 千里丘遺跡群発掘調査概要

都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 Tel:06-6941-0351

発行日 2006年3月31日

印刷 特近畿印刷センター

〒582-0001 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号 Tel:0729-72-5918

